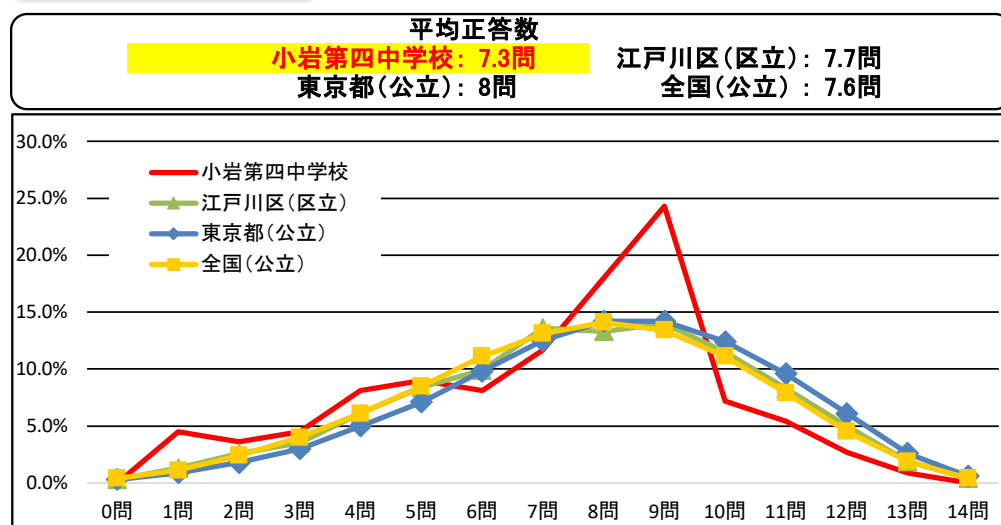


# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】小岩第四中学校

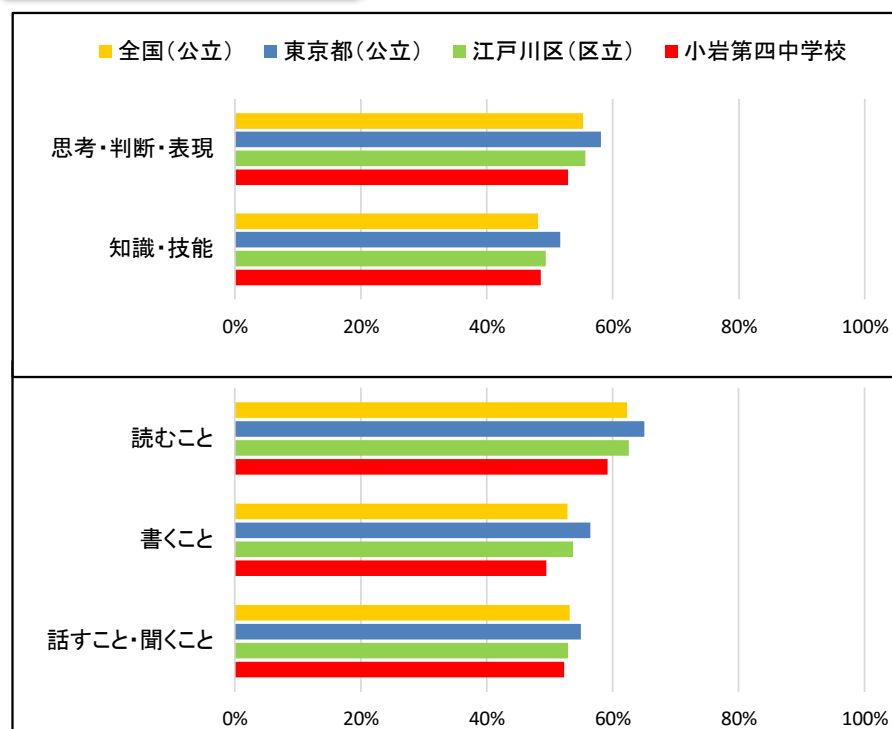
## 正答数分布



【平均正答率の差】

|            |       |
|------------|-------|
| 小岩第四中学校    | 52%   |
| 江戸川区(区立)   | 55%   |
| 東京都(公立)    | 57%   |
| 全国(公立)     | 54.3% |
| 都との差(ポイント) | -5.0  |

## 「領域別」の結果

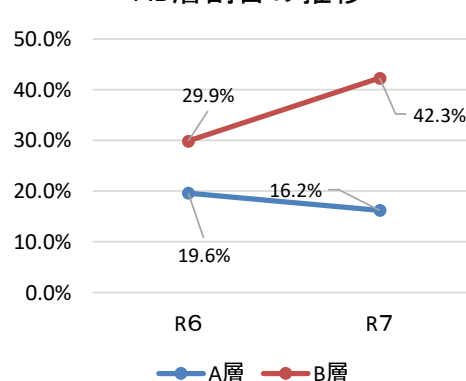


## 四分位における割合（都全体の四分位による）

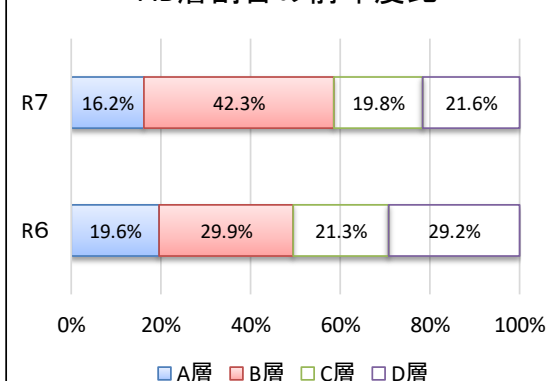
| 国語       | 上位 ← 下位      |            |            |            |
|----------|--------------|------------|------------|------------|
|          | A層<br>10～14問 | B層<br>8～9問 | C層<br>6～7問 | D層<br>0～5問 |
| 小岩第四中学校  | 16.2%        | 42.3%      | 19.8%      | 21.6%      |
| 江戸川区(区立) | 27.1%        | 27.2%      | 23.5%      | 22.2%      |
| 東京都(公立)  | 31.2%        | 28.4%      | 22.3%      | 18.1%      |
| 全国(公立)   | 25.8%        | 27.5%      | 24.2%      | 22.5%      |

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

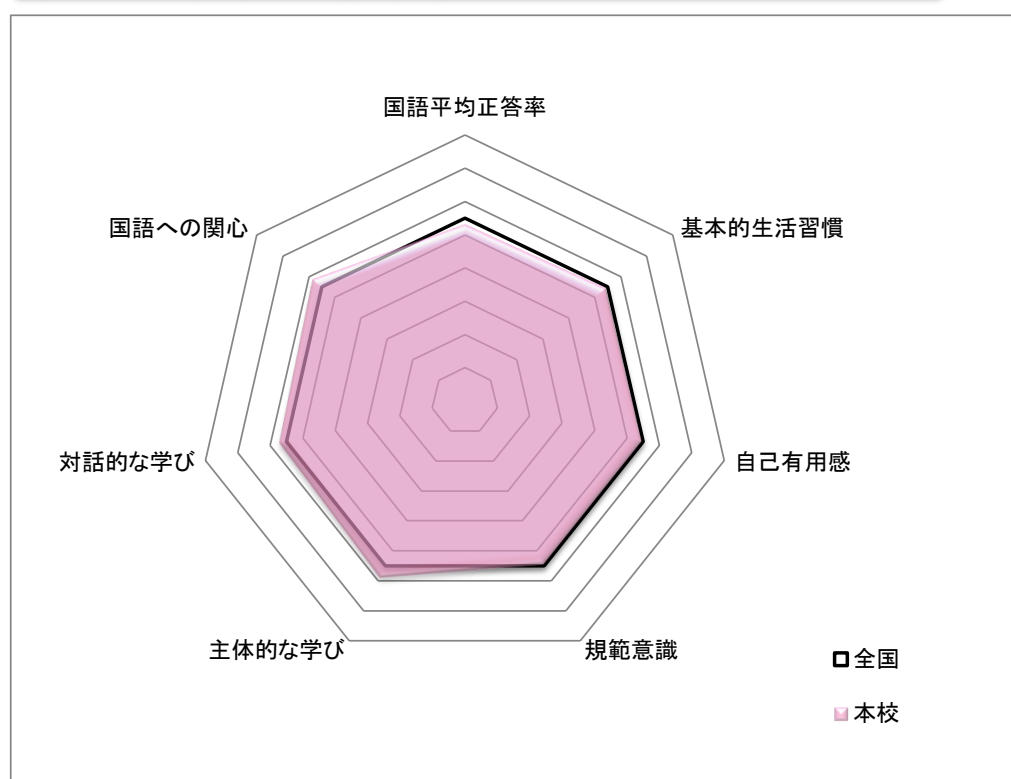
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



## 各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

対話的な学び・主体的な学び・国語への関心が全国よりも高い正答率となっている。自己有用感・規範意識・基本的な生活習慣はほぼ全国と同じ水準。だが、正答率が全国よりも低い結果となっている。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭へは三者面談や学年通信で家庭学習への協力を呼び掛けたり、生徒の得意分野や苦手分野、伸ばしてほしい分野を伝えたりし、家庭で学習に取り組む工夫を考えるきっかけをもたせる。

## 《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について  
AB層を足すと58.5%であり、合計した割合は江戸川区や東京都、全国と比べると上回っている。また、前年度と比較すると、A層は減少し、B層が12.4ポイント増加した。

## 《学校の取組》

### ・教員の指導力向上

四人班の班活動を中心に授業を展開し、学び合いを重視している。分かる生徒は分からない生徒を教えることで更に理解を深め、分からない生徒は生徒に教えられることで印象に残る形で理解を深めることができる。比較的B層が多く、CD層が少ないのはその成果だと考える。班活動に関しては生徒からも様々な意見を聞くことで考えが深められていると感想を聞く。今後は発問を工夫して発展的な課題に取り組みせ、A層を増やせるように指導力を向上させる。

### ・基礎学力の保障

①【知識・技能】は毎週の漢字小テストを継続する。また言葉に関心をもたせるために分からない言葉については積極的に調べさせるなど取り組んでいく。  
②【思考力・判断力・表現力】は文章から読み取ったことを伝え合い共有するグループ活動を行うことで読解力を向上させる。そして文章の要約やあらすじを書かせ要旨を捉える力を伸ばしたり、文章を読んで自分の考えたことを書いて表現させたりする活動を通して記述力を高めていく。

### ・学習習慣の確立

週に一度、漢字テストに取り組ませたことで、漢字テストをもっとしてほしいとリクエストする生徒も出てきた。漢字検定に挑戦する意欲ももたせることができた。漢字に限らず、作文や言葉調べなど週に1度は様々な課題に取り組ませ、学習習慣を作らせていきたい。

### ・AB層の育成

CD層を成長させAB層に育成するために、「学び合い」を生徒の意識に浸透させ、困っている班員がいたら積極的に声を掛け、サポートするような環境作りをする。国語が苦手な生徒でも仲間に触発されることで理解が深まり、意欲も高めることができると考える。